



暑かった夏休みも終わり、ときおり吹く涼しい風に、少しずつ秋の気配を感じるようになってきました。読書にも勉強にもスポーツにも、良い季節ですね。図書室では、夏休み中に届いた新しい本が、皆さんを待っています。

9月12日は マラソンの日



紀元前 450 年のこの日、ペルシャの大軍がアテネを襲いますが、名将ミルティアデスが撃退します。それを伝令する兵士が城までの 40 kmを走りますが、勝利を告げて絶命してしまいます。この出来事から、第一回アテネオリンピックで 40 km競走、いわゆるマラソンが行われたのです。

📖『永久のゼッケン 多摩川ブルーにほほえみを』倉阪鬼一郎：著

主人公の真鈴は、多摩川沿いのランニングコースで毎年開催されている、ウルトラマラソンに母と出場します。亡くなった父が果たせなかった 10 回目の完走を二人で達成するためです。そしてもう一人、元トップマラソンランナーだった純一も、スランプから抜け出すために人生をかけた参加を決めていました。

📖『陸王』池井戸潤：著

埼玉県にある老舗の足袋製造会社「こはぜ屋」は、業績不振を巻き返すために四代目社長の宮沢紘一が、足袋から着想をえた「裸足感覚」のランニングシューズの開発を始めます。目の前には多くの試練が待ち受けていましたが、仲間達とともに、前に進もうと奮闘します。



📖『スポーツ感動物語 アスリートの原点』川畑勝：編集

男子マラソン界の常識を覆したと言われた公務員ランナー、川内優輝さん。東京マラソン 2011 では自己記録を 4 分以上も縮めて 1 位でゴールし、注目を集めました。彼は市民ランナーの星として、独自の練習方法でその後も活躍し続けます。彼をそこまで突き動かした信念とは、どんなものだったのでしょうか。

もりさわあきお

森沢明夫（9月生まれ、船橋出身）

小説家、絵本作家、エッセイスト。
青森を舞台にした三部作の他、『虹の岬の喫茶店』や『夏美のホタル』など、映画化された作品も多くある。



📖『癒し屋キリコの約束』

純喫茶「昭和堂」の店主・霧子は、美人なのにだらしないところがある不思議な性格です。彼女が裏稼業としてやっている「癒し屋」は、いつも大盛況ですが、ある日の出来事をきっかけに、過去と向き合うことになります。

職業調べ *スポーツインストラクター*

『スポーツインストラクターになるには』

エイ・アイ・ケイ教育情報部：編著

健康志向の社会で、重要視される生涯スポーツ。それを支える一人がスポーツインストラクターです。参加者の見本としてスポーツを楽しみ、楽しませるのはもちろん、目的に合った指導と体調管理のアドバイスも必要とされます。そのための資格も詳しく載っているので、ぜひ参考にしてください。



この本、読んでみませんか？（司書 唐津のおすすめ）

『探偵は教室にいない』 川澄浩平：作

ある日、海砂真史（通称ウミ）は机の中にラブレターを見つけますが、差出人はありませんでした。どうしても気になったウミは、変人だが頭の良かったイメージのある幼なじみの鳥飼歩に 9 年ぶりに会いに行くことにします。

ウミと友人三人の日常を描いた 4 つの物語があり、その中で起きた謎を探偵役の鳥飼歩が解いていく青春ミステリーです。続編もあるので、そちらも読んでみてください。